

消毒薬との比較

現在、病院をはじめとする医療機関で広く使用されている消毒薬の特徴をまとめ、AP水と比較しました。

この表のデータからも、AP水の有効性、使い勝手の良さなどをご理解いただけたと思います。

●比較表

主成分の一般名		AP水	グルタール アルデヒド	次亜塩素酸 ナトリウム	エタノール	塩化ベンザル コニウム	ポビドンヨード (含滅剤)
消毒 部 位	手、指、皮膚	○	×	△	○原液 (一定量)	○200~100倍 (1分以上)	×
	粘膜	○	×	△	×	○1000~400倍 (30秒以上)	×
	創傷	○	×	×	×	○1000~400倍 (30秒以上)	×
	機械、器具	○	○原液 (30~60分以上)	○300倍	○原液 (30~60分以上)	○100倍 (10分)	×
	室内	○	○4倍	△	△	○200~50倍	×
	口腔	○	×	×	×	×	○30~15倍 (30秒以上)
有 効 菌 種	MRSA	○	○	○	○	○	○
	一般細菌	○	○	○	○	○	○
	結核菌	○注1)	○	△	○	×	○
	HBV	○注1)	○	○	×	×	×
	HIV	○	○	○	○	○	○
耐性菌による汚染		ない	ない	ない	ない	ある	ない
希釈の必要性		ない	ある	ある	ない	ある	ある
金属の腐食		ある(微)	ない	ある(少)	ある(少)	ある(少)	ある(少)
毒性		小	大	中	中	中	中
取り扱い注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ● 残留性がない ● 反応性に富むため大量使用を心掛けること 	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇薬 ● 刺激が強いので人体に使用不可 ● アルカリ性で不安定 ● 手荒れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 漂白作用あり ● 原液は強アルカリ性 ● 酸との混合は不可 ● 手荒れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 火気厳禁 ● 刺激作用 ● 樹脂の変質 ● 揮発性 ● 手荒れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 皮革・樹脂の変質 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨード過敏症の患者には不可 ● 着色、臭い
単価 (円/L)		約1.5	1,080 (1,200)	600 (670)	860 (1,150)	940 (960)	4,200 (4,300)
希釈した場合の単価 (円/L)		—	270~1,080	2	860	0.94~19.2	140~280

注1) AP水の主成分である次亜塩素酸の殺菌効果を参考にしました。